

学生による地域研究ユニット タテマエ

第1期プロジェクト メンバー募集中!

0 タテマエ (TATEMAE) とは

地元大学生を中心に発足した地域研究ユニットです。地方都市や中山間地域を対象に、地域の課題解決に向けた調査分析や、その成果を踏まえた地域づくりの実践に取り組んでいます。

「ホンネとタテマエ」という言葉があるように、タテマエという名前にはあまり良いイメージを抱かれないかもしれませんが、しかしタテマエ（建前）とは本来、柱や梁（はり）といった家屋の骨格のことを指す建築の用語です。日本の伝統的な木造建築においては、建前が組み上がった段階で上棟式が行われ、大工への感謝を伝えると共に、工事の無事を祈ります。

地域の風土や歴史、そこに住まう住民の方々への敬意を前提に、地域の深層にある骨格を知り、共有し、発信していくことを通して、个性的かつ持続的な地域づくりに微力ながら貢献していきたいと考えています。

1 タテマエの理念と「地域研究」



研究と言うと堅苦しく、難解なイメージを持たれるかもしれませんが、計画学や社会学の分野では、地域の現場に入って、住民の方へのヒアリング（聞き取り調査）や、地域づくりへの参与観察（実際の活動に加わりながら行う調査）を通して行われる研究も多く、**地域とのコミュニケーションによって研究が展開される**といっても過言ではありません。

またそうした地域との対話は、論文や報告書などの研究成果だけではなく、実際に訪れないと分からない地域の豊かな風景や営み、あるいは地域の抱える課題等、多くのものを我々に教えてくれます。**地域に貢献することはもちろん、地域の魅力や課題を五感で感じながら、授業や教科書だけではカバーしきれない経験や知識を、現場での活動を通して身に付けて欲しい**と考えています。

2 2018年度の活動

裏面も
ご参照
下さい

2-1. プロジェクトの概要

2018年度は、高知県の町神谷(このたに)北部地区の5集落を対象に、**オーラルヒストリー調査を通じた「食文化史」を編集するプロジェクト**を実施します。

オーラルヒストリー (Oral History: 口述史) とは、自治体史や文献等ではなく、住民一人ひとりの人生の履歴や、その時々での思い出を蓄積していくことによって編纂する地域の歴史のことを指します。具体的には、**集落の住民の方にお話を伺い、思い出に残っている風景や、小さい頃の遊び場、地元の食材や料理、食生活や地域行事、言い伝えといった暮らしの記憶を採集**します。その上で全てのエピソードを整理・統合し、権力者や有識者ではなく住民の方の語りから生まれる**集落の歴史 (口述史) として編纂し、ブックレットとして発行**します。この口述史の中から、特に食文化に着目して抜粋・整理したものが冒頭の「食文化史」ということとなります。

編纂した口述史や食文化史は、地域資源の活用や集落の将来像を考える上での基礎資料として、今後の地域づくりに役立てていきます。

2-2. プロジェクトのスケジュール

最終的な日程はメンバーが出揃った段階で、地域の事情等も踏まえた上での協議になりますが、概ねのスケジュールは以下の通りです。

5-7月 チーム編成と事前スタディ

5/12 土: キックオフミーティング
以降月1~2回程度: ミーティング & レクチャー、現地ツアー etc.

8-9月 フィールドワークと聞き取り調査

8/17 土~19日、8/24 金~26日、8/31 金~9/2日: 現地調査合宿

10-翌2月 聞き取りデータの整理と統合

月1~2回程度: ワークショップ形式でのオーラルヒストリーデータ整理 etc.

3月 地域での成果報告会

※1 スケジュールに関しては変更の可能性があります (メンバーの事情も踏まえ柔軟に対応します)
※2 交通費や食費等、プロジェクトに係る経費は原則事務局で負担します

第1期プロジェクトメンバー募集

地域研究ユニット「タテマエ」の活動に参画する学生メンバーを募集します!

募集人数 概ね 15名程度

定員に達した時点で打ち切る予定です。
応募状況については適宜お問い合わせ下さい。

応募条件 原則として高知県内の大学生

学部・学年は問いませんが1年を通じての活動となる為スケジュール管理にはご注意ください。

お問い合わせ先

募集要項やプロジェクトの内容などについてご不明な点がございましたら、お気軽に下記メールアドレスまたはホームページにてお問い合わせ下さい。

tatemaie-info@gmail.com (タテマエ事務局)

<https://tatemaieinfo.wixsite.com/tatemaie-hp> (タテマエHP)

活動内容 上記または裏面参照

こんな学生におすすめ

- ・農村や田舎に興味がある学生
- ・地域の文化や歴史に興味がある学生
- ・「まちづくり」や「むらおこし」に興味がある学生
- ・プロジェクト活動を経験してみたい学生



ホームページの
QRコードはこちら

[チューターからのメッセージ]



伊藤 豊隆

タテマエ共同主宰
アラキモチを再生する会 事務局
修士 (学術)

5つの集落の中には消滅可能性のある集落があります。皆さんと共に地域の口述調査に入り存続の可能性を探り、希望のある地域づくりのチャレンジに繋がってみませんか?



野田 満

タテマエ共同主宰
首都大学東京 助教
博士 (工学)

地域の問題の解決や、魅力の再発見には、学生のパワーが不可欠です。じっくりと地域と向き合い、頭も手も動かしながら、一緒に地域の将来づくりを支えていきましょう。

オーラルヒストリー（Oral History）とは

オーラルヒストリー（以下、OH）とは、自治体史や文献等ではなく、**住民一人ひとりの人生の履歴や、その時々での思い出を蓄積していくことによって編纂する地域の歴史**のことを指します。語り手との対話による「個人史」の収集・記録、そこから得られた情報の整理によってOHは作られます。

語り手となる住民個人の人物や当時の集落の雰囲気等、見えないものをデータ化するアプローチであり、**かたちには残りにくい（或いは残すこと自体が難しい）地域の遺伝子を読み取り、今後の地域づくりに活かしていくのははじめの一歩**となる重要な史料であるといえます。



自治体史・文献等：

識者や権力者によって編纂された「公式の歴史」。本当に大切にしていきたい地域の資源や、暮らしの息遣いが抜け落ちており、地域づくりに活かすには一定の限界がある？



補完しながら地元の魅力、知恵や工夫を知る



口述史（オーラルヒストリー）：

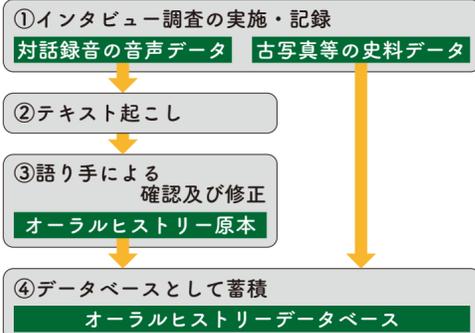
地域に生きる一人ひとりの物語の集積＝「実感のある歴史」であり、地域の持つ潜在的な可能性や、地域づくりの方向性を定める為の基礎資料として活用が可能？

オーラルヒストリーの概要▲

OH調査による「記憶の採集」とデータベース化

集落住民へのインタビュー調査によって個人史を紐解きながら、「**現在に至るまでの思い出**」「**小さい頃の遊び場や溜まり場**」「**地元の食材や料理**」「**食生活や地域行事、言い伝え**」「**昔と今の地域の様子の違い**」「**お気に入りの場所や風景**」といった暮らしの記憶を採集します。

対話内容は録音した後テキスト化を行い、語り手（調査対象者となる集落住民）の確認を取った上で「OH 原本」としてデータベース化します。これらの蓄積が「OH データベース」になります。また調査時に古写真や日誌等の史料データの提供許可を得られた場合は、適宜データベースに加ええます。



OH調査の様子▲

OH調査のプロセス▲

記憶の積層による地域史の編纂と時空間別 / テーマ別整理

OH データベースを細分化し、**時間（いつ）や空間（どこ）、テーマ（どんな）等の項目ごとに整理した上で地域史として編纂**します。具体的には年表やカレンダー、地図、冊子等にして取りまとめる方法がありますが、他の手段についても、コミュニケーションツールとして有用なものがあれば積極的に検討していきます。

地域史の編纂は、地域に「あたりまえにあるもの」を整理し、見直す作業でもあります。**本当に大切なものやPRすべきもの、取り組むべきものは何なのかを見定める為の、地域資源の棚卸し**であるといえるでしょう。



語りの分類と時空間上の「見える化」▲

持続的なむらづくり計画の提案に向けたOHの活用

OH の発信・共有を通し、「**役に立つ過去から懐かしい未来**」を形作るむらづくりの計画を構想します。地域外からの支援を受ける上でもむらづくりの方向性を明確化することは重要です。

OH によって発見された資源は、本質的かつ持続的な地域の魅力であるといえます。一方でそうした資源を「**褒めて、守る**」だけでなく、時には「**節操ある活用（地域の活動エネルギーからみても、地域の文脈からみても無理の無い稼ぎ方）**」を**考えることも必要**です。流行り廃りに振り回されない「地域の地力」を考えながら、少しずつ実践に繋げていきます。



ガリバーマップを用いたむらづくりWS▲



食文化の再興の為の「食の文化祭」▲
【引用】一関市 HP

美しい村などはじめからあったわけではない。
美しく生きようとする村人がいて、村は美しくなったのである。

（柳田國男：都市と農村）



神谷北部地区：
プロジェクト対象地である神谷（このたに）北部地区は、高知県の町南部に位置する、5つの集落からなる中山間地域です。空石（からいし）積み美しい棚田景観を有し、和紙の里としても有名ですが、過疎高齢化が著しく、地域づくりにおける課題も多い状況です。

中山間地域の食文化史と「医食同源」：
医食同源とは、普通の食生活こそが健康長寿の源だとする考え方のことを指します。本プロジェクトでは、中山間地域の多様な食文化に、人間の豊かな暮らしを支える医食同源のヒントがあるのではと考えています。OH 調査によって、中山間地域の食文化の様相（単に「何を食べているか」だけでなく、食にまつわる風景や慣習、環境の有り様）を明らかにし、健やかに生きる暮らしの要点を整理することで、都市では得られない中山間地域の生活像を共有すると共に、5集落の連携に基づく今後の地域づくりの素地にしていくことを目指します。

「観光まちづくり学」と「地元学」の融合：
都市とは異なる特徴や課題、計画原理を有する中山間地域ですが、近年の人口流出に鑑みた場合、来訪者を積極的に誘致する「観光」の導入による地域づくりは有効であると考えられます。しかし地域の文脈の理解に基づいた観光むらづくりの先進的事例はまだ殆どみられません。本プロジェクトは、まちづくりの理念をもって地域の資源を観光対象として定位し、観光振興を進めていく「観光まちづくり学」分野と、地域遺伝子の尊重を前提に、その潜在的価値に迫る「地元学」との融合を、OH の活用を通して図ろうとしています。

地元学生による地域研究ユニット「タテマエ」：
本プロジェクトの実施主体である「タテマエ」とは、県内の多様な大学から集まった学生による地域研究ユニットです。地方都市や中山間地域を対象に、地域の課題解決に向けた調査分析や、その成果を踏まえた地域づくりの実践に取り組んでいます（裏面参照）。プロジェクト終了後も末長い地域とご縁の維持が期待できる「地元大学出身である」ことの強みと、若い価値観やアイデアといった「大学生である」ことの強みを活かし、OH 調査による地域の歴史の探求と発信、更には住民の方との協働による地域づくりへの展開を積極的に進めたいと考えています。